



「一所懸命」と「一生懸命」はどうちがうの

与えられた領地を守る

約800年前の鎌倉時代に、自分の領地として与えられた土地を、武士は必死になって守りました。家族を養ったり、家来たちに十分な働きをしてもらうために必要なこの領地が「一所」であり、「一所懸命の地」として、一所を守るために命をかけたわけです。ですから、鎌倉時代には一所という領地を示していたわけです。

一生をかけてやりとげる

ところが、江戸時代（今から400年くらい前）になると、武士も領地を守るのに命をかけるというような気持ちがなくなり、それよりも、大事なことを生きているかぎりやるということをおおげさにいった「一生懸命」になったといわれます。自分の一生をかけてものごとをやる、命をかけて死ぬまでやりとげるというように、ことばの意味が変わってきたのです。

もちろん今では、「一生懸命」とか「一生のお願い」といったように、一生のほうがよく使われています。（監修・保岡 孝之）

